

第8期ぎふ政治塾 第1回講座

第2部講演

「立候補者に求められるスピーチ技法を聞いて」

塾生番号035 神野 浩明

講義の冒頭に、ぎふ政治塾第2期第1回講座において、渡辺塾長が政治家に求められる素養として、①志、②人間性、③演説力、④他人の気持ちがわかるかどうか、の四点を挙げられたことを聞いた。

この4つのなかで、演説力・スピーチは自分の最も苦手をするところである。これまでも保育園の保護者会長や小学校のPTA会長などを務めたときに、人前で話す機会を得て、諸々のスピーチをしてきたが、その度に上手く快活に話さねばという思いが強くなりすぎ、そのプレッシャーのため、事前に考えていた話したいことを上手く伝えられずにきた。一言一句間違えず完璧に話そうと意識するあまり言葉に詰まると、自分の主義、主張を堂々と自信をもって喋ることができず、ややもすると語尾が不明瞭になってしまうのである。

そのようなスピーチについて苦手意識のある自分にとって、阿部先生の講義は、大変参考になった。

まず、立候補者に求められるスピーチ技法として、①機敏に起立して、軽やかに歩くことで候補者の人柄を見せること、②聴衆を喜ばせることを冒頭の10秒間で言うこと、③一番伝えたいことを冒頭で言うこと、④文は短く、間を長くおくこと、⑤接続詞はできるだけ少なく使うこと、⑥スピーチのテーマとスピーチの目的とを混同しないこと、⑦五感のうち、視覚と聴覚に訴えるスピーチをすること、⑧スピーチの最後は聴衆を巻き込む文言で結ぶこと、の8点を挙げられたが、今後、これらの点をスピーチの際に意識していこうと思う。スピーチの内容を一語一句間違えず遺漏なく話そうと意識するのではなく、こうしたスピーチのアウトラインを押さえ話すことで、候補者と有権者との仲間意識を醸成していくことが大事であると感じた。

次に、立会演説と街頭演説のスピーチ技法の違いを学ぶことができた。立会演説では、親しみの感情を込めて比較的ゆっくりとした口調で話すのがよい。一方、街頭演説では、背筋を伸ばして、直立不動の姿勢で、聴衆に候補者が頭脳明晰であると思わせるような比較的速い速度で話し、文節と文末に短い間を置き、大声でにこやかに話しかけるようなスピーチをしなければならない。今後は、立会演説又は街頭演説ではこのようなスピーチの違いを意識して臨みたい。

最後に、阿部先生がお話しのなかにおいて、①相手の顔を見て話す、②腹から声を出す、③笑顔を振りまく、④視覚に訴える、⑤聴衆と共通するものを話す、などの人前で話す際の所作を繰り返し述べておられたのが印象的であった。こうした当たり前のことを当たり前に自然とできるようになりたいと思った。

阿部先生のご年齢のこともあり、今回が政治塾での最後の講義になるかもしれないとのことであった。大変残念な気持ちであるが、これまで私たち塾生のために、塾生一人ひとりの特性を生かしたスピーチの仕方を非常に熱心に一挙手一投足までもお教えいただいた。阿部先生に改めて感謝申し上げたい。先生の期待に沿えるよう、努力を重ね、初心を貫いて地域に有意な人材にならなければいけないと改めて強く思った。

以上